日経産業新聞　2003.8.4　第1面

余命予測

治療法選びに活用

国立国際医療センタ

国立国際医療センターの秋山昌範情報システム部長は「新手法を使えば、明確な根拠なしにがん患者に余命期間を告げたりせずにすむ」としている。

延命につながる可能性もある。各地の集団検診結果を使って乳がんや胃がん、子宮がんもデータマイニングによる解析をする計画だ。

などに基づく仮説を立てたうえで統計解析でそれを検証する場合が多かった。データの選び方や仮説によっては、正しい結果が得られなかった。

今回の解析では、国立病院長崎医療センターの八橋弘臨床研究センター治療研究部長らが集めた約七十七万件のデータを使った。一九九〇年から二〇〇二年までに肝疾患で死亡した四百五十六例が対象。血液検査結果と病状などの詳細情報を電子化し、日本IBMのデータマイニング用ソフトで解析した。

その結果、検査数値と肝臓がん患者の余命期間との関係がわかった。例えば「PIVKA」と呼ばれるたんぱく質の異常を示す数値が一定以上だと九割以上の確率で一年以内に死亡する傾向があった。PIVKAは肝臓がんと関連が深いとされるが、余命との関係を明

水の透明度 携帯測定器

オプテックス

【大津】赤外線センサー開発のオプテックスは、水の透明度を手軽に測定できる携帯型の器具を開発した。

器具の検出部を水に漬けるだけで、透明度の測定値をデジタル表示する。透過光方式という測定方法によって光の影響が出ない構造にしたため、昼夜・天候を問わず測定できる。

商品名と形式は「ポータブル透視度センサ TP-M100」。

表示単位は最も水の透明度が高い状態を百センチとし、水が濁っていれば九十センチ、八十センチと「透視距離」が短くなっていく仕組み。器具は四百グラムと軽量。検出部と表示部をケーブルでつないだ構造。電源はアルカリ乾電池一個。

住宅の浄化槽の保守点検会社や水泳用プールの管理会社など向けに販売を始めた。標準価格は十六万円。初年度八百個の販売を目指す。

見取り図の縮尺 不正確でも

ロボットが館内案内

奈良先端大教授ら開発

【京阪奈】奈良先端科学技術大学院大学の木戸出正継教授らの研究グループは、縦横の縮尺が適当な見取り図でも、目的地まで案内できるロボットを開発した。センサーで通過した交差点の数などを計測して確認しながら進行する仕組み。実用化できれば、オフィスビル内部の案内ロボットなどに応用できる。

開発したのは、レーザー光を照射して位置を把握するセンサーとパソコンを搭載した自走式のロボット。まず、利用者はパソコンの地図ソフトウエアで行き先を指定する。ロボットは地図情報をもとに目的地までの最適な経路の途中にある交差点の数と形状を把握する。センサーで通路の「丁字路」や「十字路」などを識別、通過した交差点の数を確認しながら進む。縦横の縮尺が適当でも、交差点の形や数などが正確で通路と部屋の区別が認識できる地図であれば、案内できることが特徴。従来のロボットは縮尺が正確な地図でないと案内できなかった。

面に続く

面に

仕は僕。すべね返る。引きらそれは覚悟

切りますね。
ったら負け。
ったら絶対負も腹切ったるちは絶対、選

オレがとる。、個々のプレら責任とれ』責任はオレの

いう気持ちは。覚悟があれも言えるはず

た。他のがん試みる予定治療法の決定る。

ニングは主手持ちの全い互いの関係従来は膨大なから無作為に抽出し、経験

Cybozu

全国無料セミナー開

主催：サイボウズ株式会社　協力：マイクロソフト株式会社、KDDI株式会社

そうかグループ

お申し込みはこちらから　http://g.cybozu